

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

115

先日、1985年の日

航機墜落事故の現場である御巢鷹の尾根に初めて登った。前橋に赴任して知り合いになった方が詳しくかったので、ガイド役として同行してもらった。登山前に上野村の「慰霊の園」で事故当時の状況を振り返り、展示されている折れ曲がったメガネや時計などから、事故の衝撃の大きさを想像した。遺品には子ども用の靴や人形もあり、小さなお子さんも犠牲になったことを思うと胸が締め付けられた。

「慰霊の園」を出て、

神流川沿いを車で上り御

御巢鷹の尾根へ

巢鷹の尾根の登山口を目指す。今は上野ダムに沿ってトンネルや道路が整備されているが、事故当時はまだ完成していな

記憶つなぐ手助けに

ったはずだ。当時は事故現場からの往復だけでもとても苦勞したと思う。

2019年の台風19号で被害を受けた登山道の整備はほぼ終了して歩きやすくなっており、登山

口の駐車場から御巢鷹の尾根の墜落現場にある慰霊碑「昇魂之碑」までは思っていたよりも短時間

で着いた。「昇魂之碑」から南側をみると、墜落した日航機123便の主翼が地面を削り取った「U字溝」がくつきりと残っている。

あの斜面に飛行機の主翼が当たって、機体がこ

られた数々の墓標や、ご遺族・ご友人からのメッセージを見て、ここで多くの命が失われたことの無念さを強く感じた。こうした事故は二度と起こしてはならないとあらためて思う。

今回の訪問で何より感謝したいのは、上野村の方々をはじめ、御巢鷹の

故当時の状況を一生懸命に想像したが、実際の状況は私の想像をはるかに超えるものだっただろう。尾根いっぱいに建て

尾根とそこに至るルートを維持・管理して頂いている方々だ。墜落事故の発生から、来月で満38年になる。長年にわたって助けになればと思う。

肥後秀明（ひご・ひであき）

1969年生まれ

茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを

経て2022年4月から現職。

